中国の文化Ⅲ

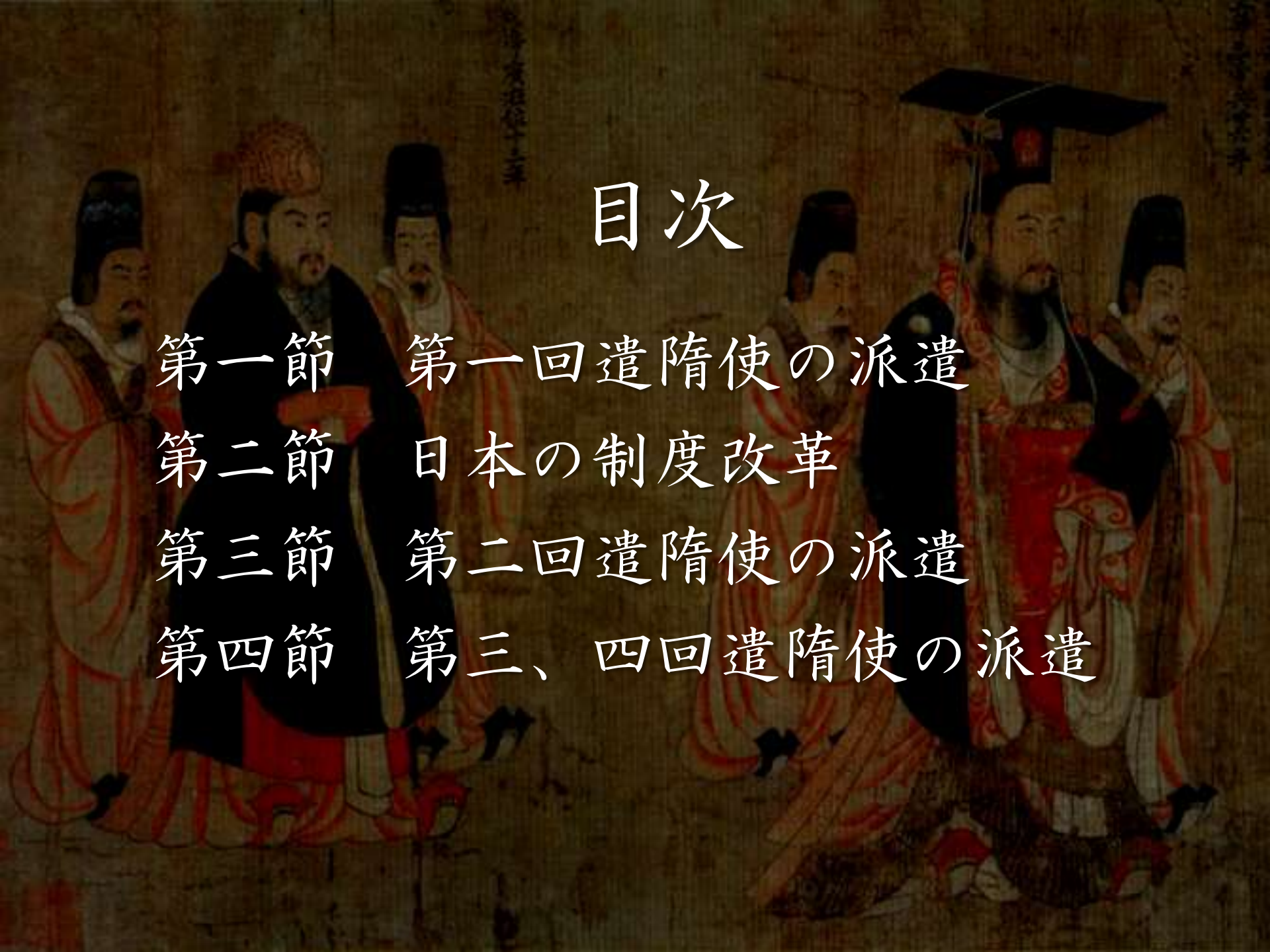
日中文化交流史

第三回　朝貢から外交へ

一世紀にアジアの外交舞台へのデビューを果たした倭は、日本語を共通語とする文化圏を拡大しながら、中国や朝鮮半島との外交を通じて、先進的な文化を受容していった。

一方、倭に先進的な文化を伝えたのは、国家間の交流だけではなかった。後漢末以来、約四百年に及んだ分裂と抗争の時代の中で、大陸や朝鮮半島から多くの人々が、アジアの新世界、日本列島へと渡った。

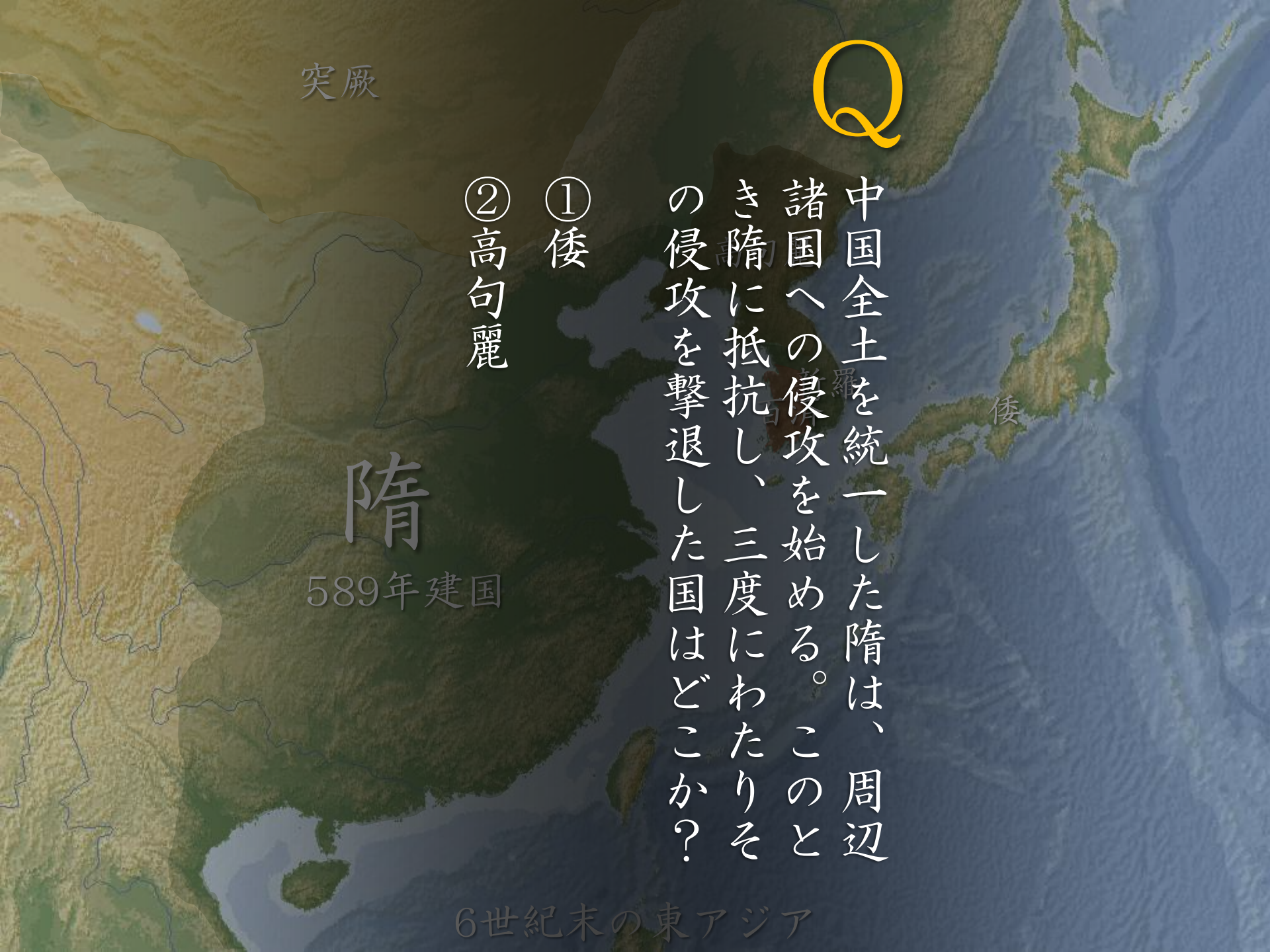
六世紀の末、隋が中国全土を統一すると、倭はこうした移民たちをブレインとして改革を進め、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を展開する。



目次

第一節　第一回遣隋使の派遣
第二節　日本の制度改革
第三節　第二回遣隋使の派遣
第四節　第三、四回遣隋使の派遣

第一節　第一次遣隋使の派遣



Q

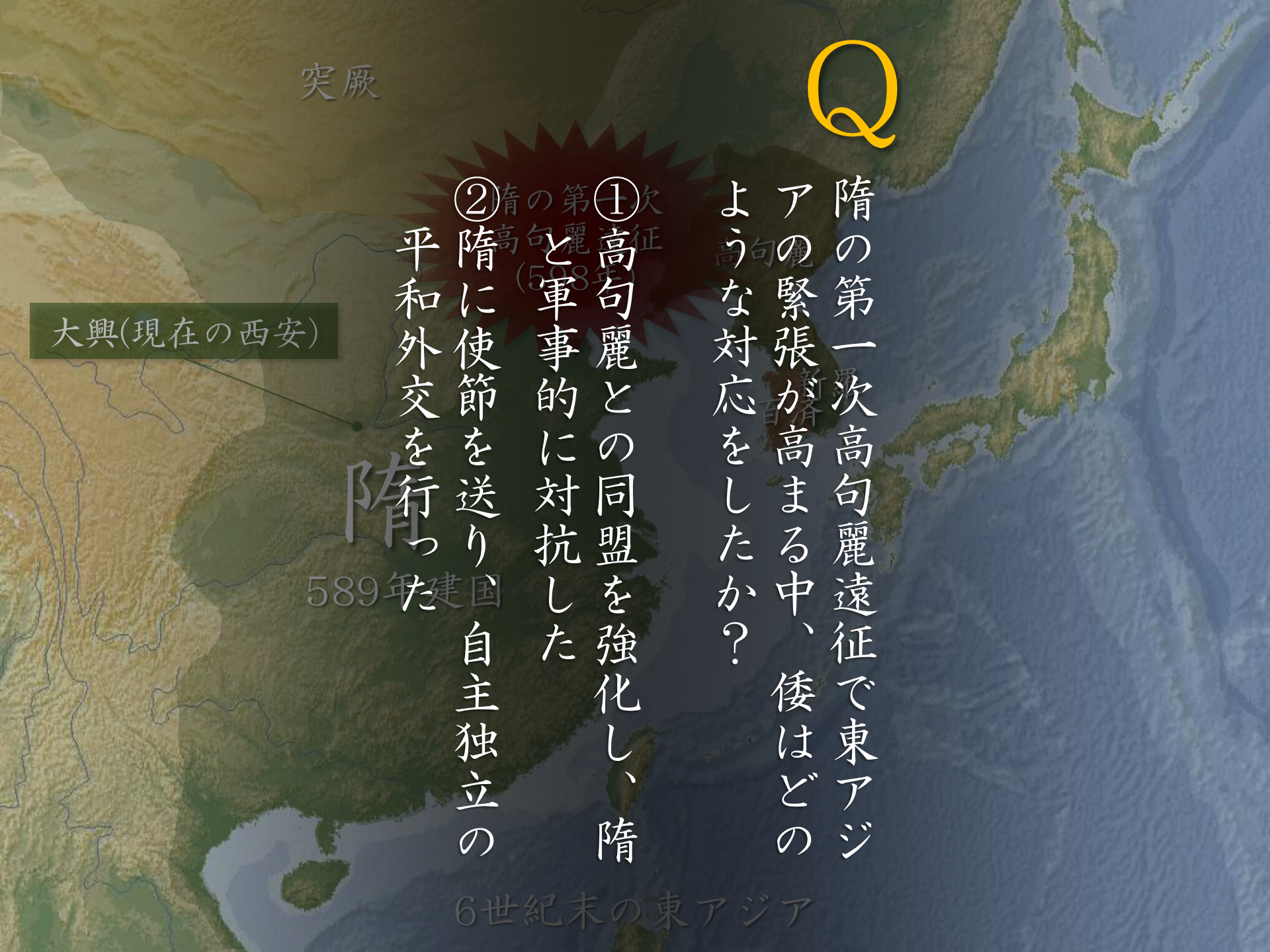
中国全土を統一した隋は、周辺諸国への侵攻を始める。このとき隋に抵抗し、三度にわたりその侵攻を撃退した国はどこか？

① 倭

② 高句麗

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・琵聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

突厥
隋の第一次
高句麗遠征
(598年)
高句麗
大興(現在の西安)
新羅
百済
隋
589年建国
6世紀末の東アジア



Q

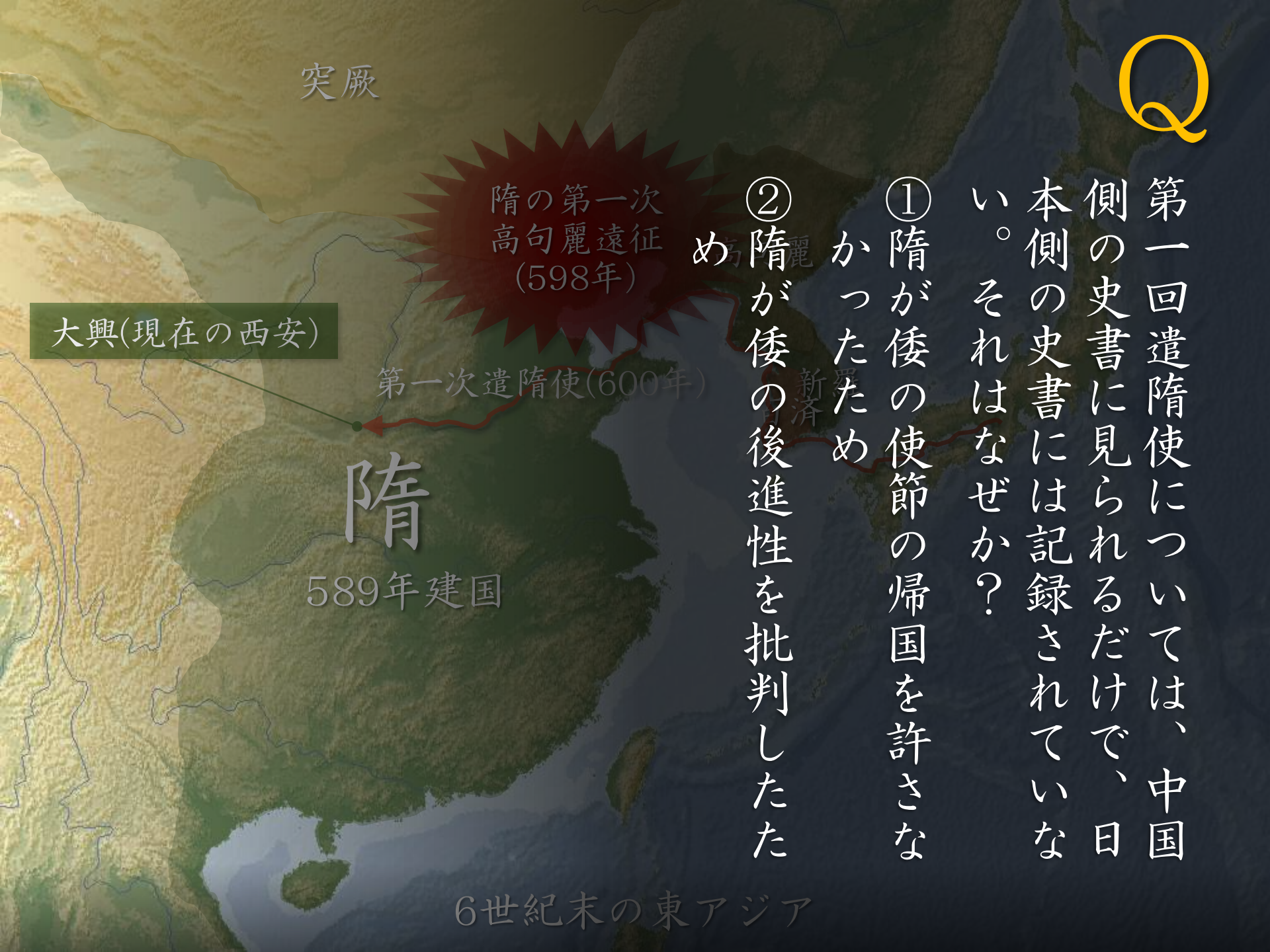
隋の第一次高句麗遠征で東アジアの緊張が高まる中、倭はどのような対応をしたか？

①高句麗との同盟を強化し、隋と軍事的に対抗した

②隋に使節を送り自主独立の平和外交を行った

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑯聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

突厥
隋の第一次
高句麗遠征
(598年)
高句麗
大興(現在の西安)
第一次遣隋使(600年)
新羅
百済
隋
589年建国
6世紀末の東アジア

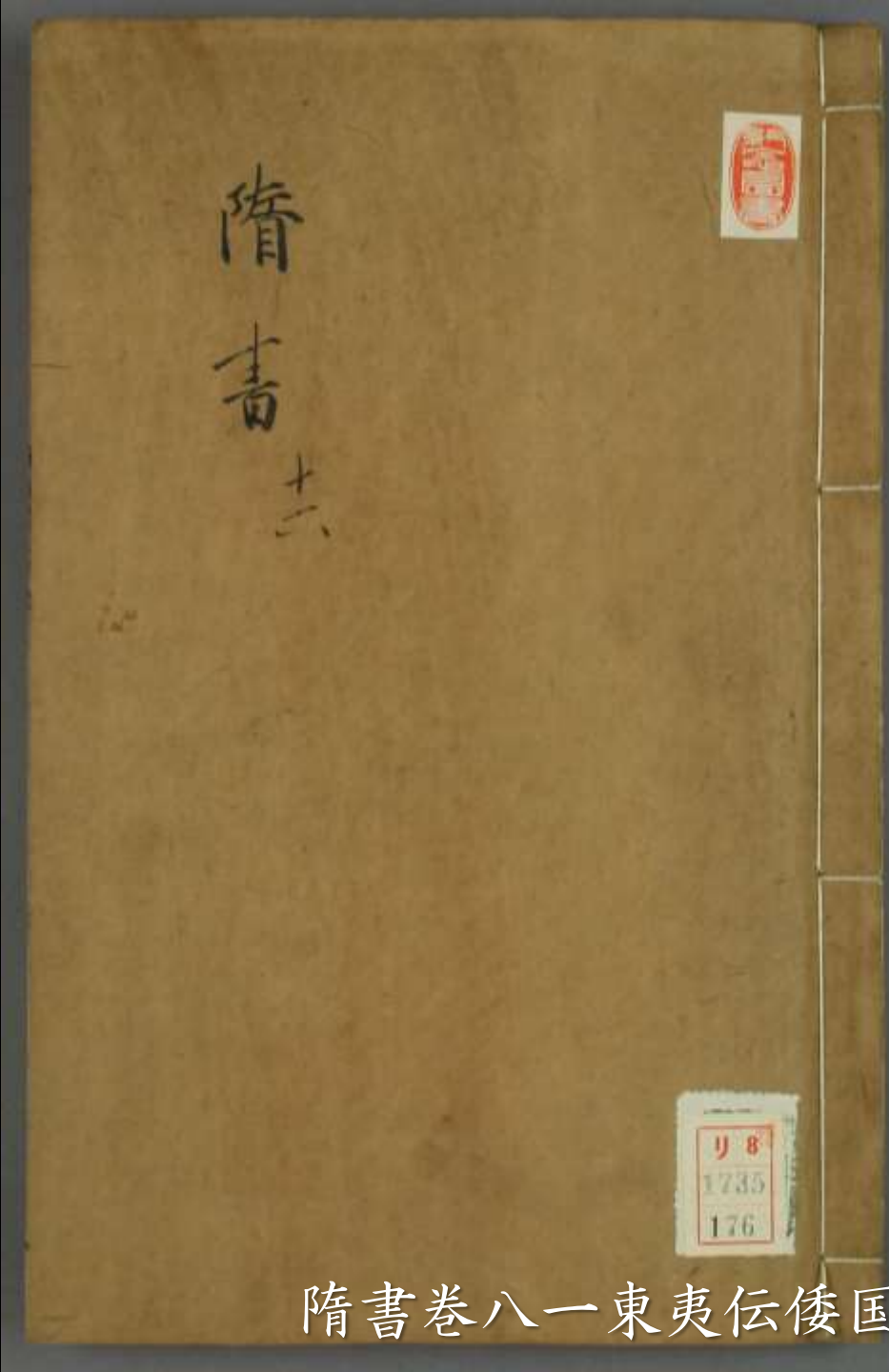


Q

第一回遣隋使については、中国側の史書に見られるだけで、日本側の史書には記録されていない。それはなぜか？

①隋が倭の使節の帰国を許さなかったため

②隋が倭の後進性を批判したため



リ8
1735
176

國言不相通掠一人而返明年帝復令寬慰撫之流求不從寬取其布甲而還時俀國使來朝見之曰此夷邪久國人所用也帝遣武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華嶼又東行二日至鵂鶹嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崑崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

俀國

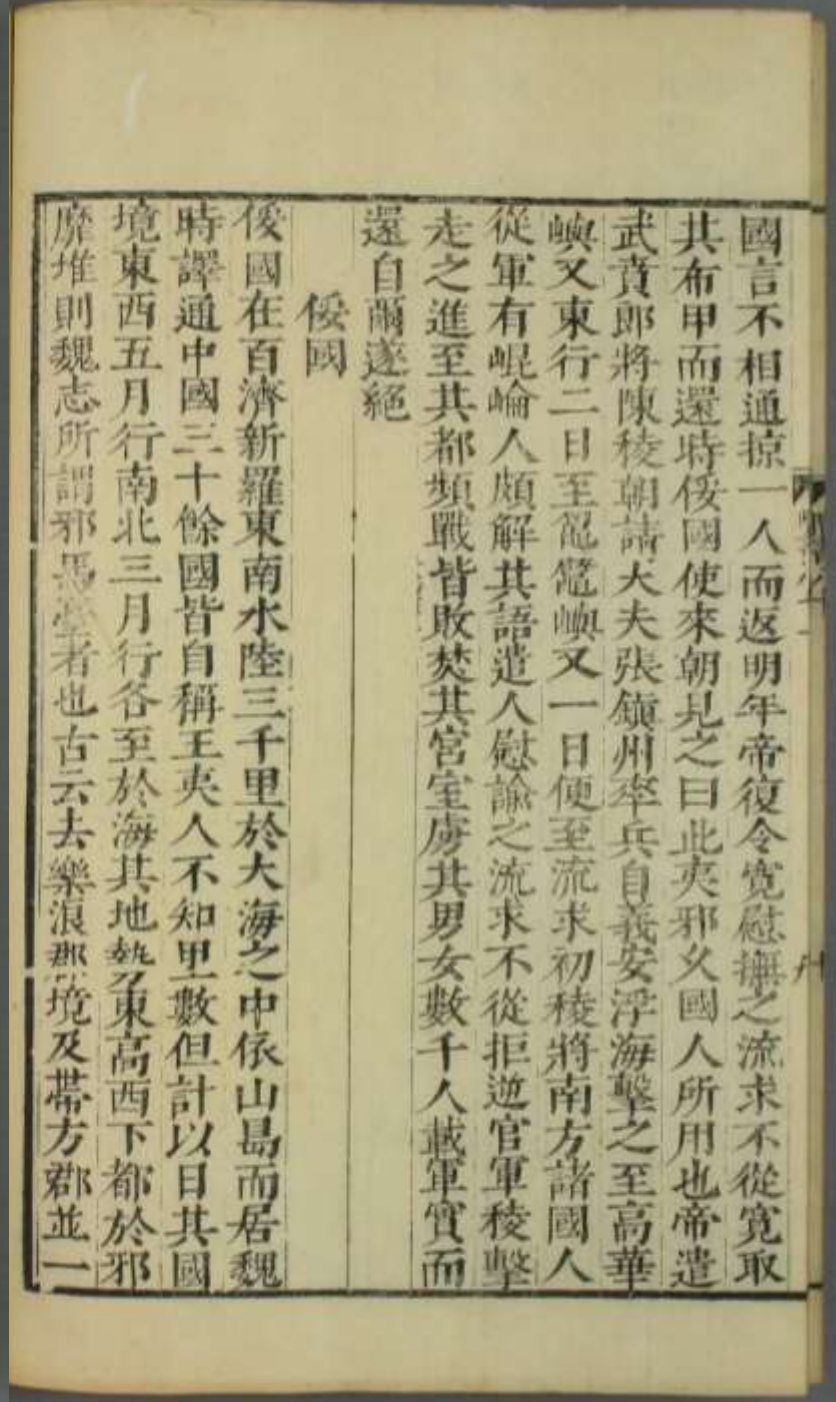
俀國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地勢東高西下都於邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

隋書卷八一東夷伝倭国（早稲田大学図書館蔵）

隋書巻八一東夷伝倭国

隋書は唐代の初めに勅命によって編纂された正史の一。巻八一の東夷伝の倭国の条には、後漢から南北朝時代にかけての日中間の交流のほか、二度にわたって派遣された遣隋使の事績が記録されている。

リ8
1735
176



國言不相通掠一人而返明年帝復令寛慰撫之流求不從寛取其布甲而還時倭國使來朝見之曰此夷邪久國人所用也帝遣武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華嶼又東行二日至鵂鶹嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崐崘人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絶

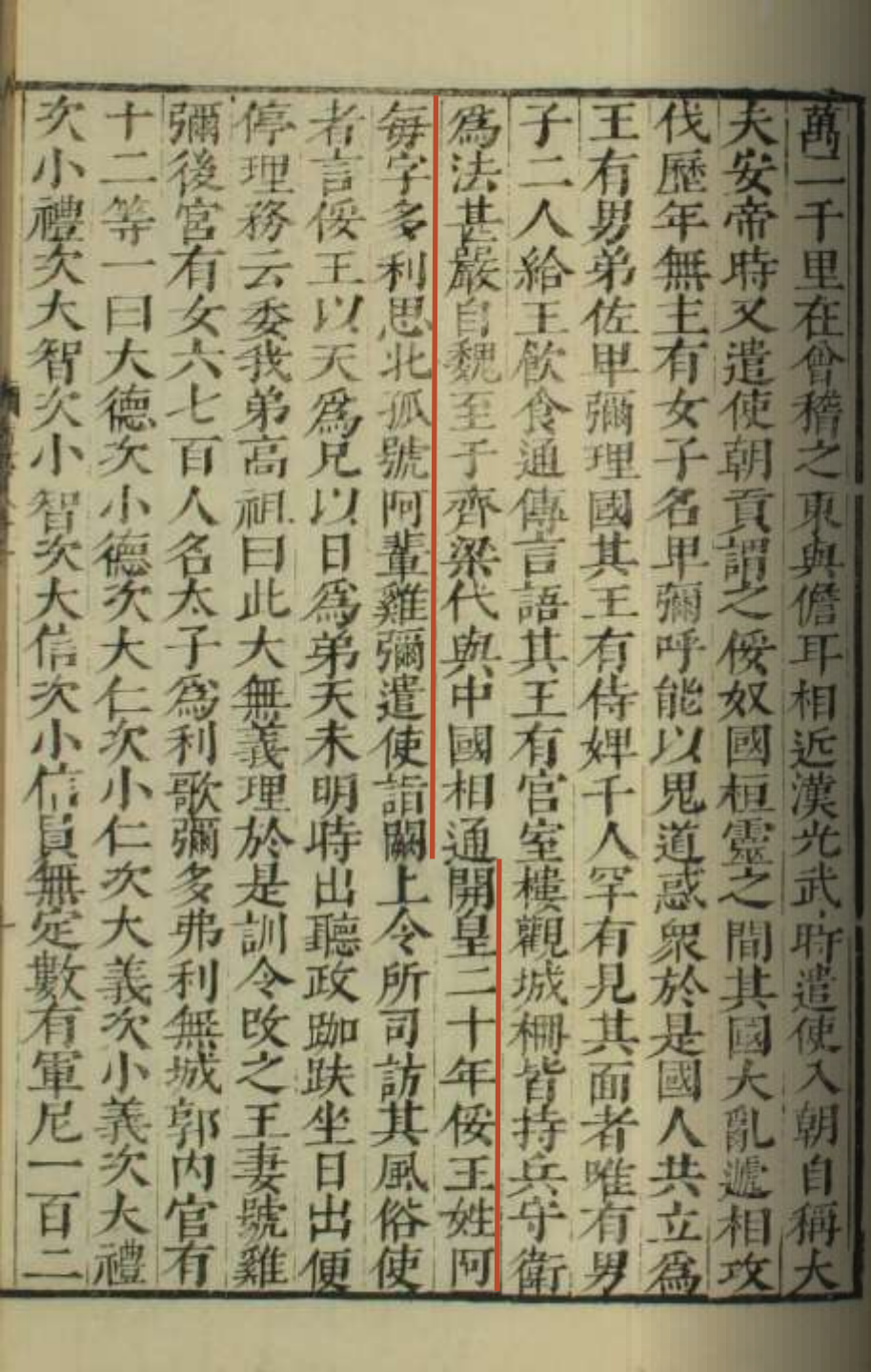
倭國

倭國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地勢東高西下都於邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

倭の後進性への批判

開皇二十年(六〇〇年)、倭王、姓は阿毎(アメ?)、字は多利思比孤(タリシヒコ?)、阿輩雞弥(オオキミ?)と号す者が、隋の都・大興(現在の西安)に使いを遣わした。

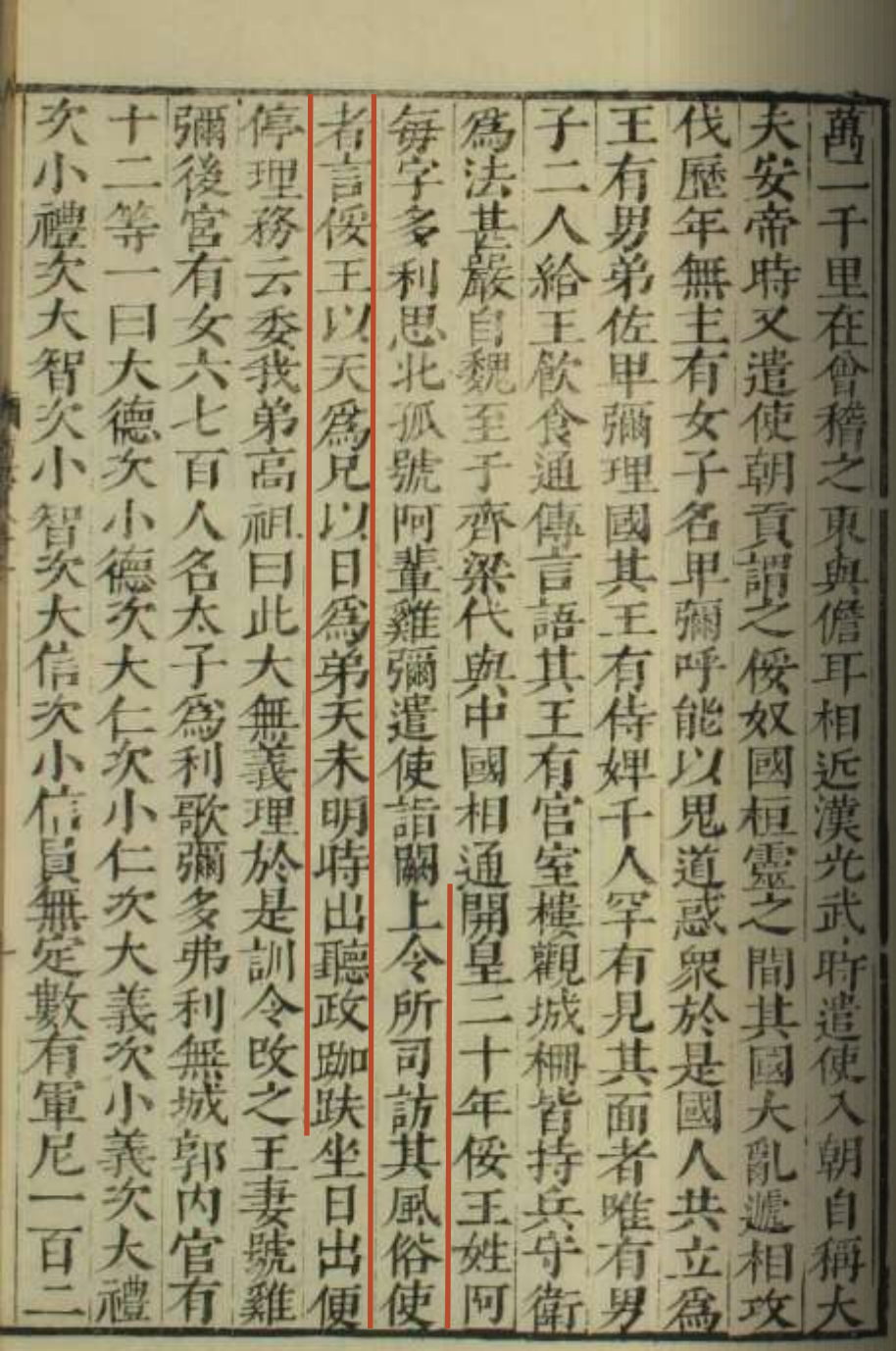
『隋書』巻八一東夷伝倭国


萬二千里在會稽之東與儋耳相近漢光武時遣使入朝自稱大夫安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道惑衆於是國人共立爲王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌遣使詣闕上令所司訪其風俗使者言倭王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跏趺坐日出便停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭内官有十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

倭の後進性への批判

隋の高祖(文帝)は係官にその風俗を訪ねさせた。使者がいうには「倭王は天を兄とし、日を弟としております。夜が明ける前は出て政を聞き、胡座しておりますが、日が出れば政務を止め弟に任せようと申します」高祖は「それは不合理すぎる」と言って、これを改めるよう諭した。

『隋書』巻八一東夷伝倭国


萬二千里在會稽之東與儋耳相近漢光武時遣使入朝自稱大夫安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道惑衆於是國人共立爲王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌遣使詣闕上令所司訪其風俗使者言倭王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跏趺坐日出便停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭内官有十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

来越國獻白鹿一頭
七年夏四月乙未朔辛酉地動舍屋悉破則令
四方祠祭地震神
秋九月癸亥朔百濟貢駱駝一疋騾一疋羊二
頭白雉一候
八年春二月新羅與任那相攻天皇欲救任那
是歲命境部臣爲大將軍以穗積臣爲副將軍
並闕名則將萬餘衆爲任那擊新羅於是直指新

日本書紀卷二十二推古天皇八年（國學院大學図書館蔵）

日本書紀巻二二推古天皇紀

古事記に遅れること八年、七二〇年に完成した日本最初の編年体史書。巻二二の推古天皇紀には、三回にわたって派遣された遣隋使の事績が記録されているが、推古八年(六〇〇年)の第一回遣隋使については何も記録されていない。

隋文帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

隋は当時、世界で最も先進的な国家であった。政治・軍事両面での中央集権化、律令制度による法治体制、科挙制度による身分や家柄に関わりない平等な人材登用など、一連の改革によって中国の再統一を実現した。

そんな隋にとって、いまだ宗教と政治が未分化であった日本は、まともな外交交渉の相手とは見なされなかったのである。

こうして第一次遣隋使の外交交渉は、失敗に終わった。

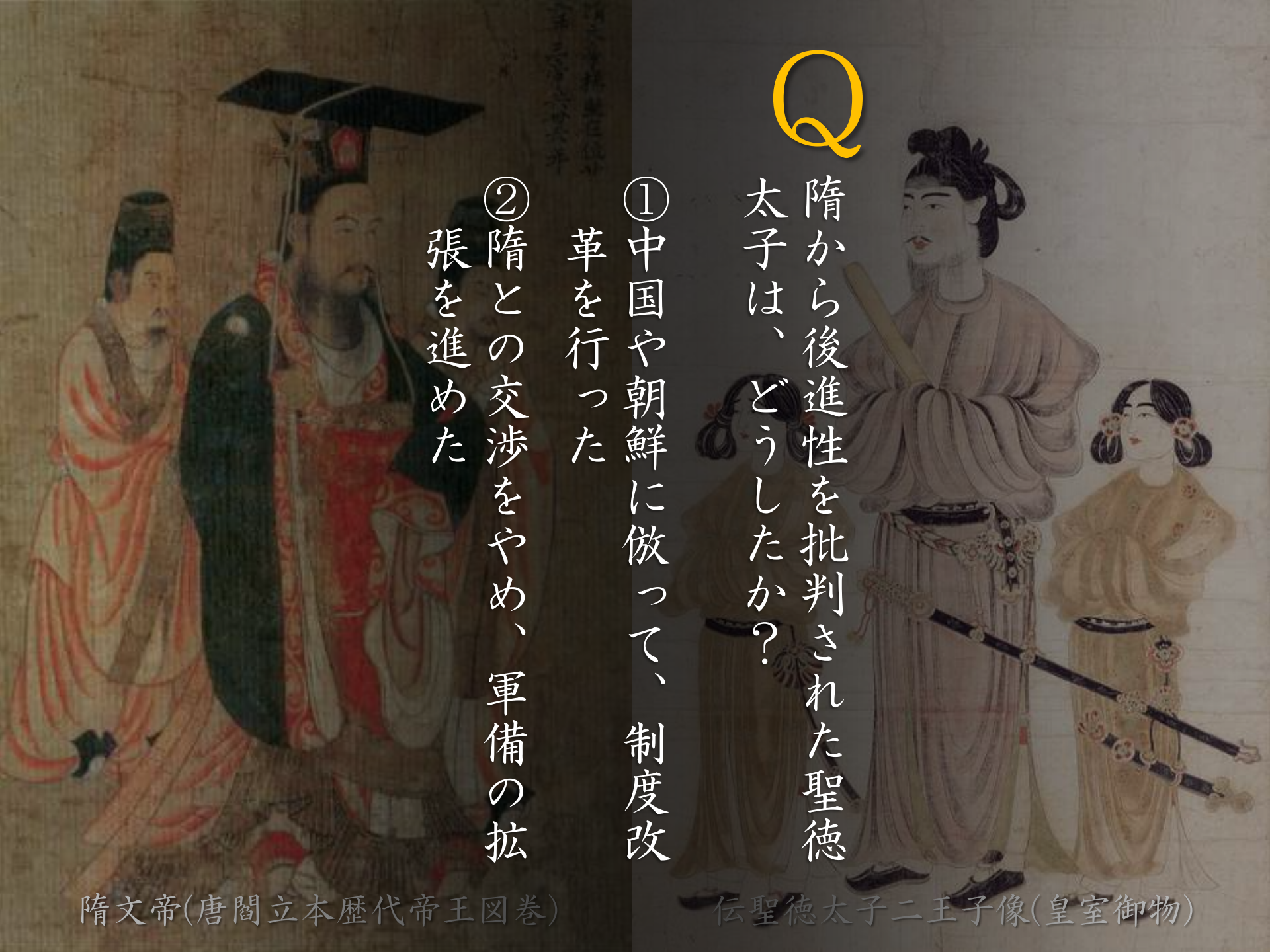
第二節　日本の制度改革

Q
超大国・隋との間で外交交渉を担当していたのは誰か？
①菅原道真
②聖徳太子
突厥
大興(現在の西安)
隋
589年建国
新羅
百済
6世紀末の東アジア

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

隋文帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

伝聖徳太子二王子像(皇室御物)



Q

隋から後進性を批判された聖徳太子は、どうしたか？

①中国や朝鮮に倣って、制度改革を行った

②隋との交渉をやめ、軍備の拡張を進めた

隋文帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

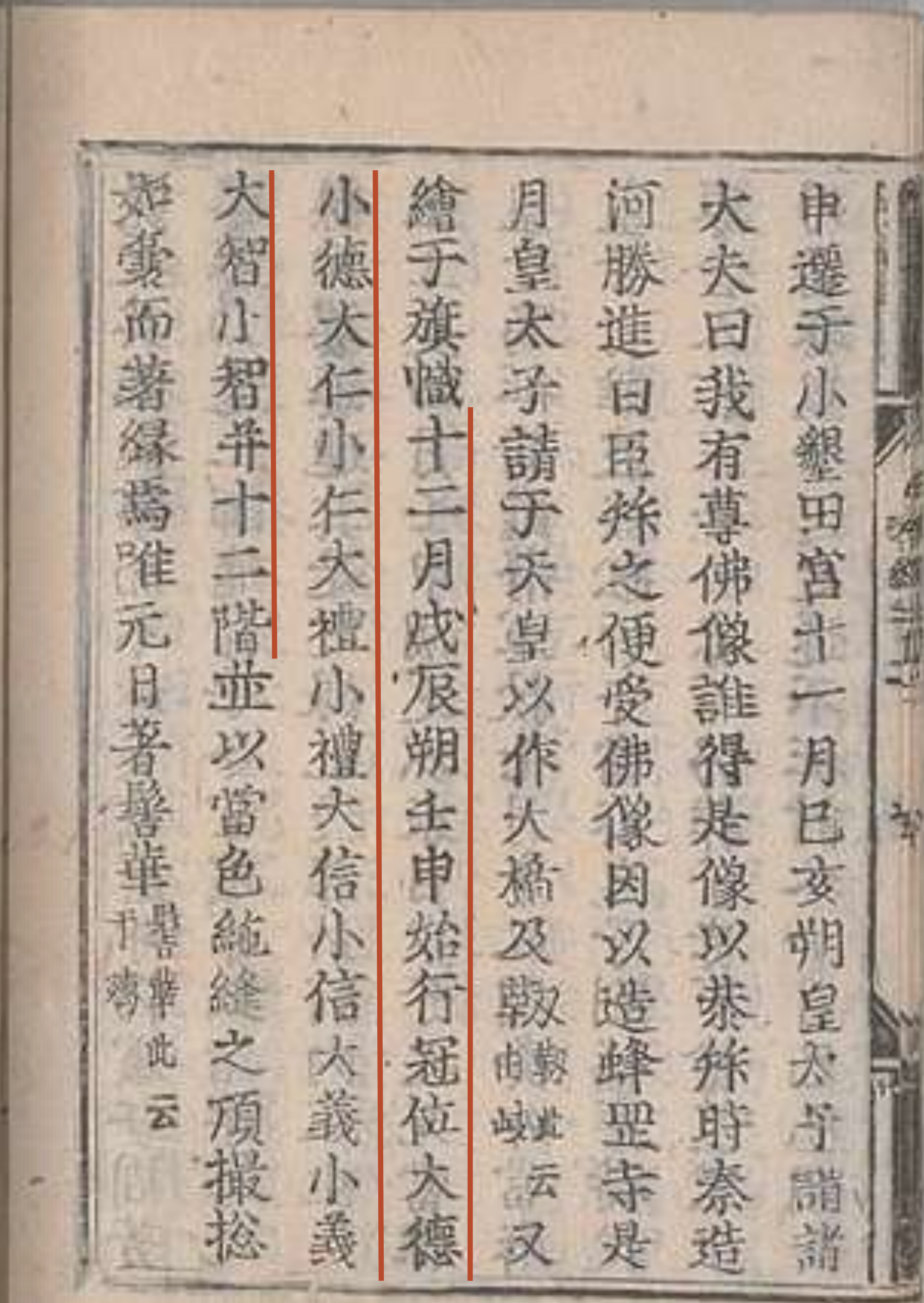
伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

冠位十二階（官僚制度）

（推古天皇の十一年）十二月、戊辰朔壬申の日、初めて冠位制度を定めた。大徳、小徳、大仁、小人、大礼、小礼、大信、小信、大義、小義、大智、小智、あわせて十二階。

『日本書紀』巻二二推古天皇紀


申遷于小墾田宮十一月己亥朔皇太子謂諸
大夫曰我有尊佛像誰得是像以恭拜時秦造
河勝進曰臣拜之便受佛像因以造蜂岡寺是
月皇太子請于天皇以作大楯及靫〈靫此云由岐〉又
繪于旗幟十二月戊辰朔壬申始行冠位大德
小德大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義
大智小智幷十二階並以當色絁縫之頂撮捴
如嚢而著縁焉唯元日著髻華〈髻華此云于孺〉

日本書紀(國學院大學図書館蔵)

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

憲法十七条

（推古天皇の十二年）春正月、戊戌朔、はじめて諸臣に冠位を賜う。各々差あり。夏四月、丙寅朔戊辰の日、皇太子（聖徳太子）が、みずから初めて憲法十七条を作った。

『日本書紀』巻二二推古天皇紀

十二年春正月戊戌朔始賜冠位於諸臣各有差夏四月丙寅朔戊辰皇太子親肇作憲法十七條一曰以和爲貴無忤爲宗人皆有黨亦少達者是以或不順君父乍違于隣里然上和下睦諧於論事則事理自通何事不成二曰篤敬三寶三寶者佛法僧也則四生之終歸万國之極宗何世何人非貴是法人鮮尤悪能教從之其不歸三寶何以直枉三曰承詔必謹君則天

日本書紀（國學院大學図書館蔵）

Q

聖徳太子の外交のブレインとなったのはどのような人々か？

①皇族や古くから倭王家に使える豪族たち

②朝鮮半島から来た僧侶たち

隋文帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸豊聡耳皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑚聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

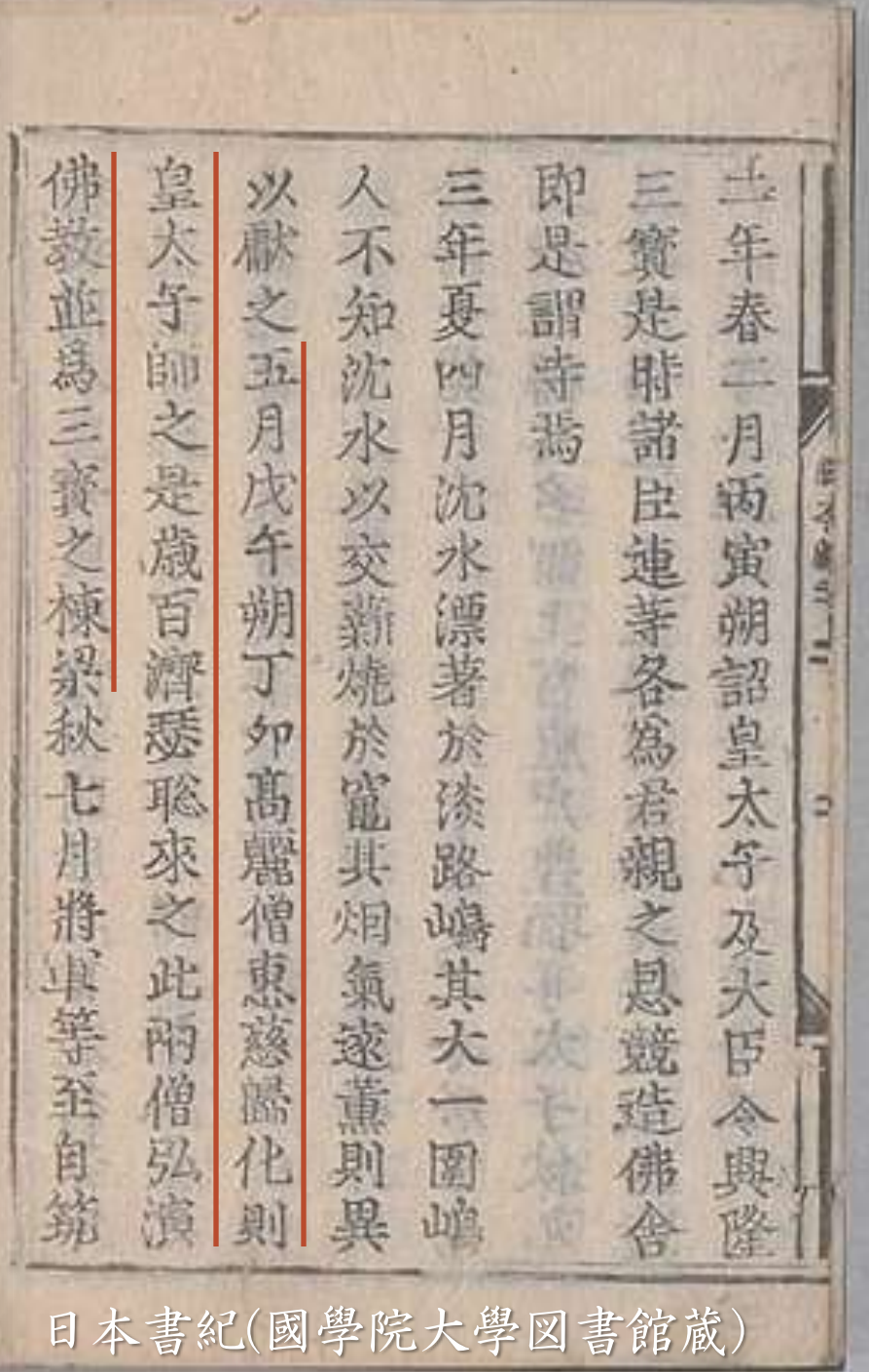
聖徳太子のブレイン

（推古天皇の三年）五月、戊午朔丁卯の日、高麗（高句麗のこと）の僧・恵慈が帰化し、皇太子（聖徳太子）はこれに師事した。

この年、百済の瑟聡も来朝した。

この二人の僧は仏教を広め、ともに三宝の棟梁となった。

『日本書紀』巻二二推古天皇紀



日本書紀（國學院大學図書館蔵）

第三節　第二次遣隋使の派遣

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

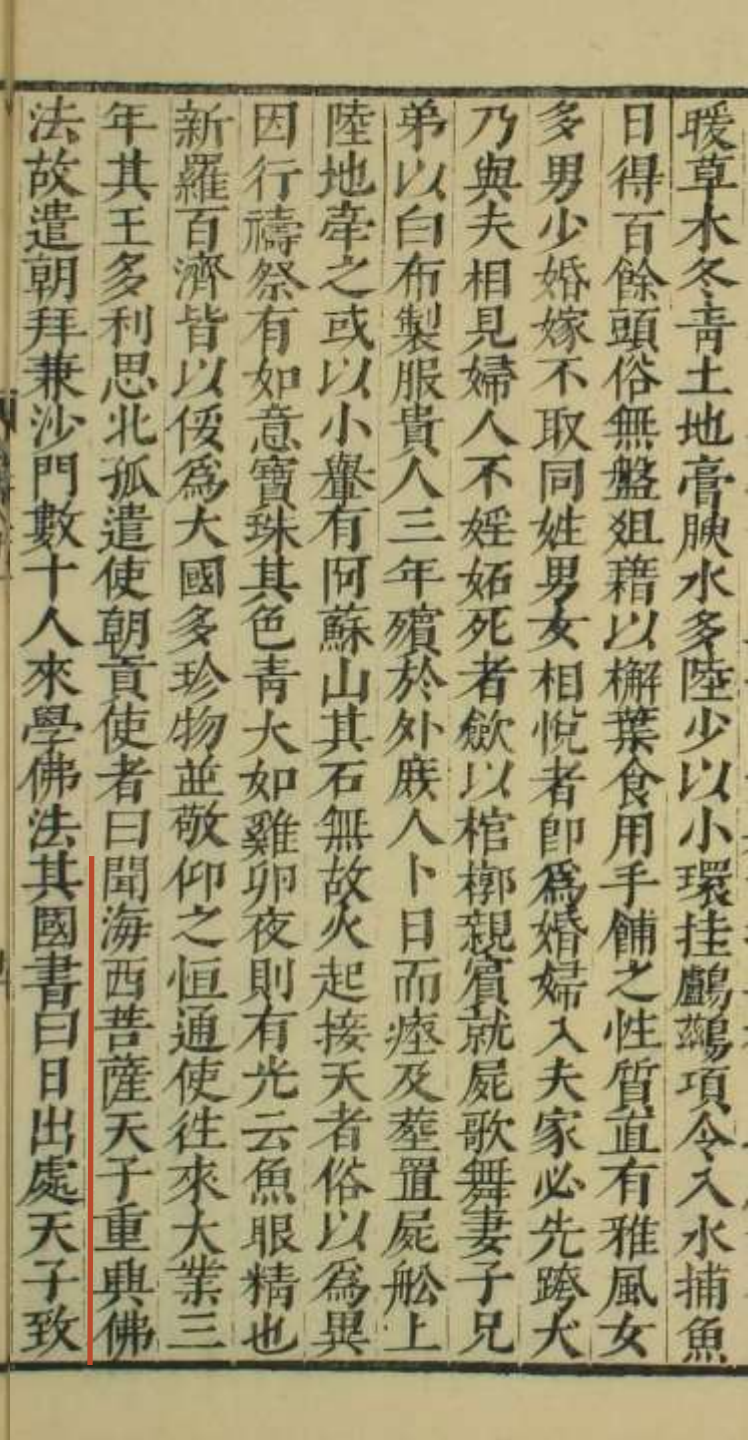
突厥
高句麗
大興(現在の西安)
第二次遣隋使(607年)
新羅
百済
隋
589年建国
7世紀初頭の東アジア

暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鼻鶏項令入水捕魚
日得百餘頭俗無盤俎藉以槲葉食用手餔之性質直有雅風女
多男少婚嫁不取同姓男女相悦者即爲婚婦入夫家必先跨犬
乃與夫相見婦人不淫妬死者斂以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄
弟以白布製服貴人三年殯於外賤人卜日而瘞及葬置屍船上
陸地牽之或以小輿有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異
因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也
新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三
年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛
法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

第二次遣隋使

大業三年（六〇七年）、その王・多利思比孤が、使いを遣わして朝貢した。使者は言った。「海の西の菩薩天子が仏法を再興されたと聞きましたので、朝貢の使節を遣わすとともに、僧侶数十人を同行させ、仏法を学ばせたいと思います。」

隋書巻八一 東夷伝倭国


暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鼻鶏項令入水捕魚
日得百餘頭俗無盤俎藉以槲葉食用手餔之性質直有雅風女
多男少婚嫁不取同姓男女相悦者即爲婚婦入夫家必先跨犬
乃與夫相見婦人不淫妬死者斂以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄
弟以白布製服貴人三年殯於外賤人卜日而瘞及葬置屍船上
陸地牽之或以小輿有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異
因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也
新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三
年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛
法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致
書日没處天子無恙云云帝覽之不悦謂鴻臚卿曰蠻夷書有無
禮者勿復以聞明年上遣文林郎裴清使於倭國度百濟行至竹
斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經
十餘國達於海岸水行五百里始到一大國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿輩

第二次遣隋使

その国書には、

「日出ずるところの天子が日没するところの天子に国書を送ります。つつがなくお過ごしでしょうか……」

煬帝はこれ読むと気分を害し、鴻臚卿(外交担当の大臣)に「野蛮人の国書には無礼なところがあるので、もう奏聞する必要はない」と言った。

隋書巻八一東夷伝倭国

Q

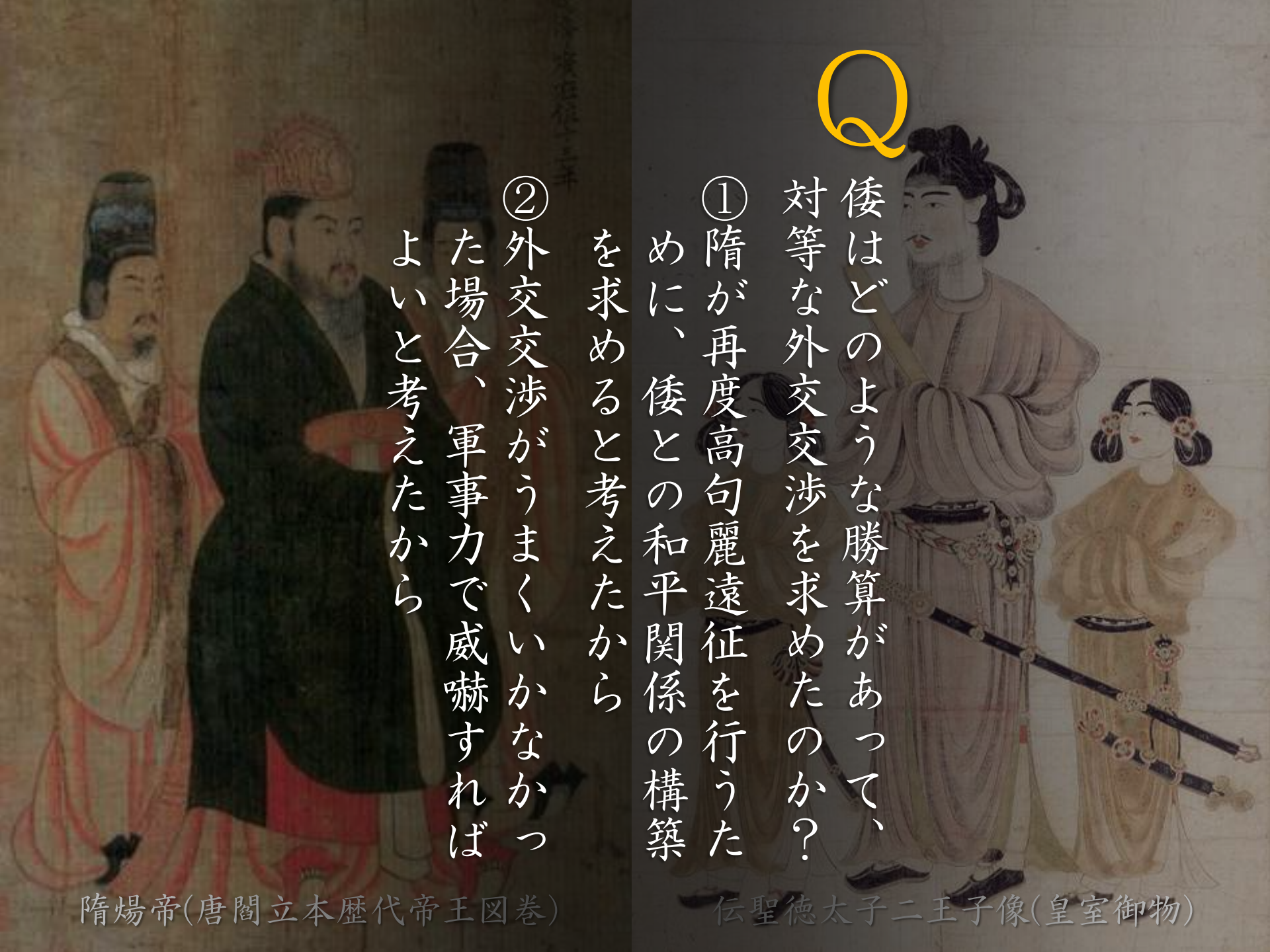
隋の煬帝はなぜ倭が送った国書に激怒したのか？

①倭を「日出ずるところ」、隋を「日没するところ」と表現したから

②倭の王が自らを「天子」と称したから

隋煬帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

伝聖徳太子二王子像(皇室御物)



Q

倭はどのような勝算があって、対等な外交交渉を求めたのか？

①隋が再度高句麗遠征を行うために、倭との和平関係の構築を求めると考えたから

②外交交渉がうまくいかなかった場合、軍事力で威嚇すればよいと考えたから

隋煬帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑟聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

突厥
隋の第一次
高句麗遠征
(598年)
高句麗
大興(現在の西安)
新羅
百済
隋
589年建国
6世紀末の東アジア

突厥
隋の第二次
高句麗遠征
(612年)
高句麗
大興(現在の西安)
新羅
百済
隋
589年建国
6世紀末の東アジア

Q

隋との対等な外交交渉は成功したか？

①成功した

②失敗した

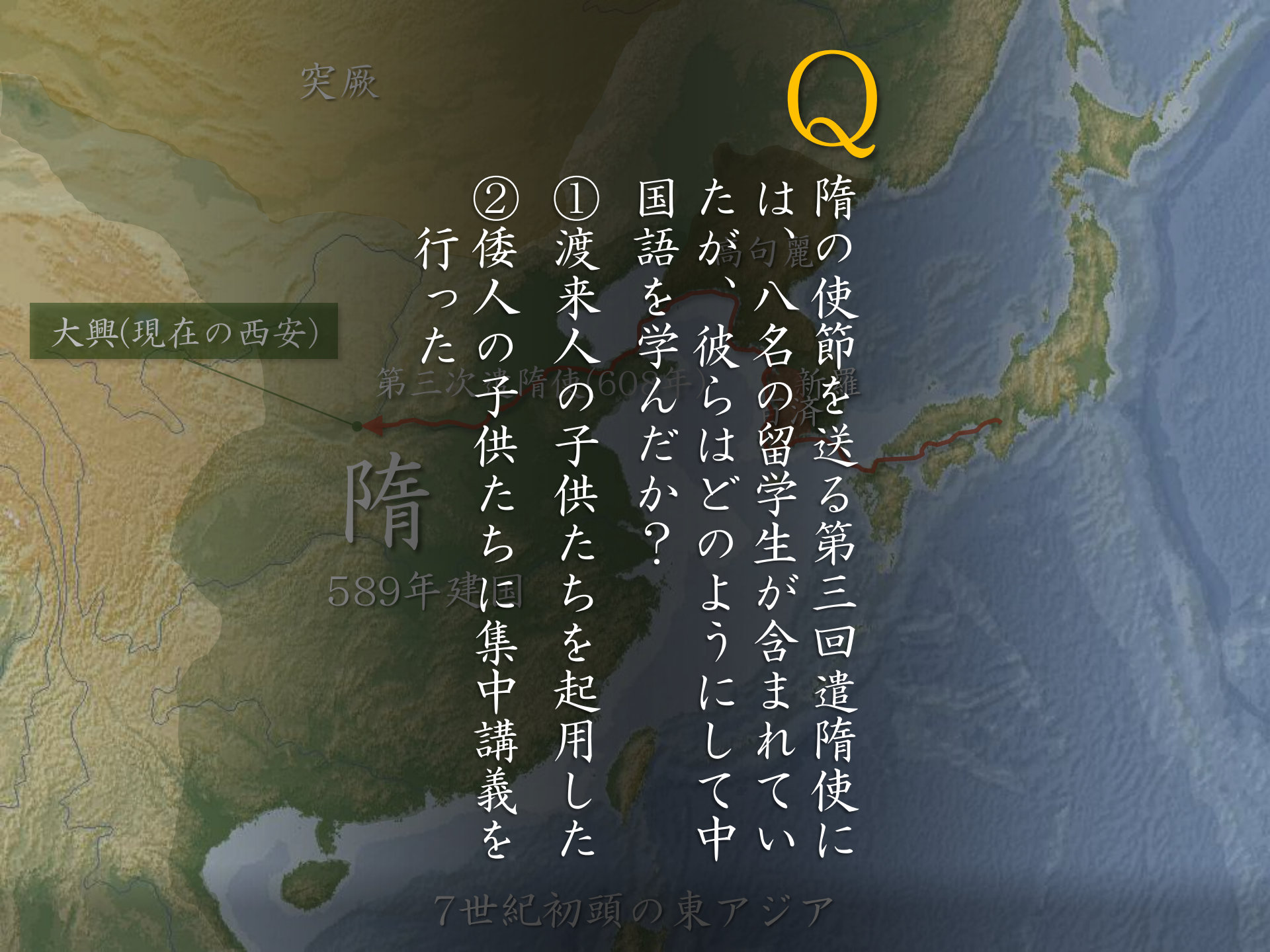
隋煬帝(唐閻立本歴代帝王図巻)

伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第四節　第三、四次遣隋使の派遣

西暦	中国	日本	出来事
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇 2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝、聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	日本が第一次遣隋使を派遣 ＊中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	日本が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	日本が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	日本が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 日本が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 日本が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡



Q

隋の使節を送る第三回遣隋使には、麗八名の留学生が含まれていたが、彼らはどのようにして中国語を学んだか？

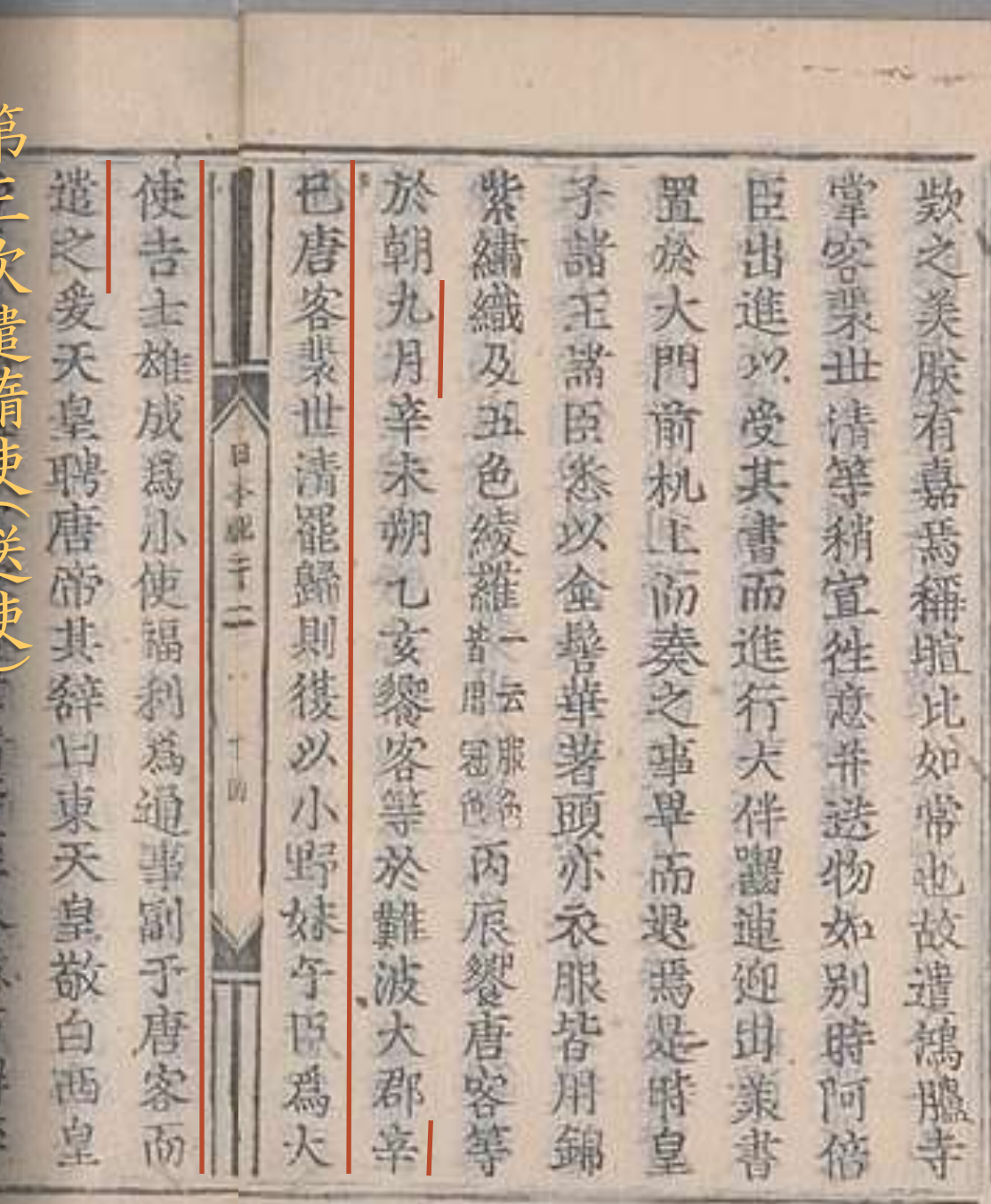
①渡来人の子供たちを起用した

②倭人の子供たちに集中講義を行った

第三次遣隋使(送使)

九月辛巳、隋使・裴世清が任務を終えて帰国することになった。そこで再び小野妹子を大使とし、吉士雄成(きしのおなり)を小使とし、(鞍作)福利を通訳として、隋使の随行として派遣した。

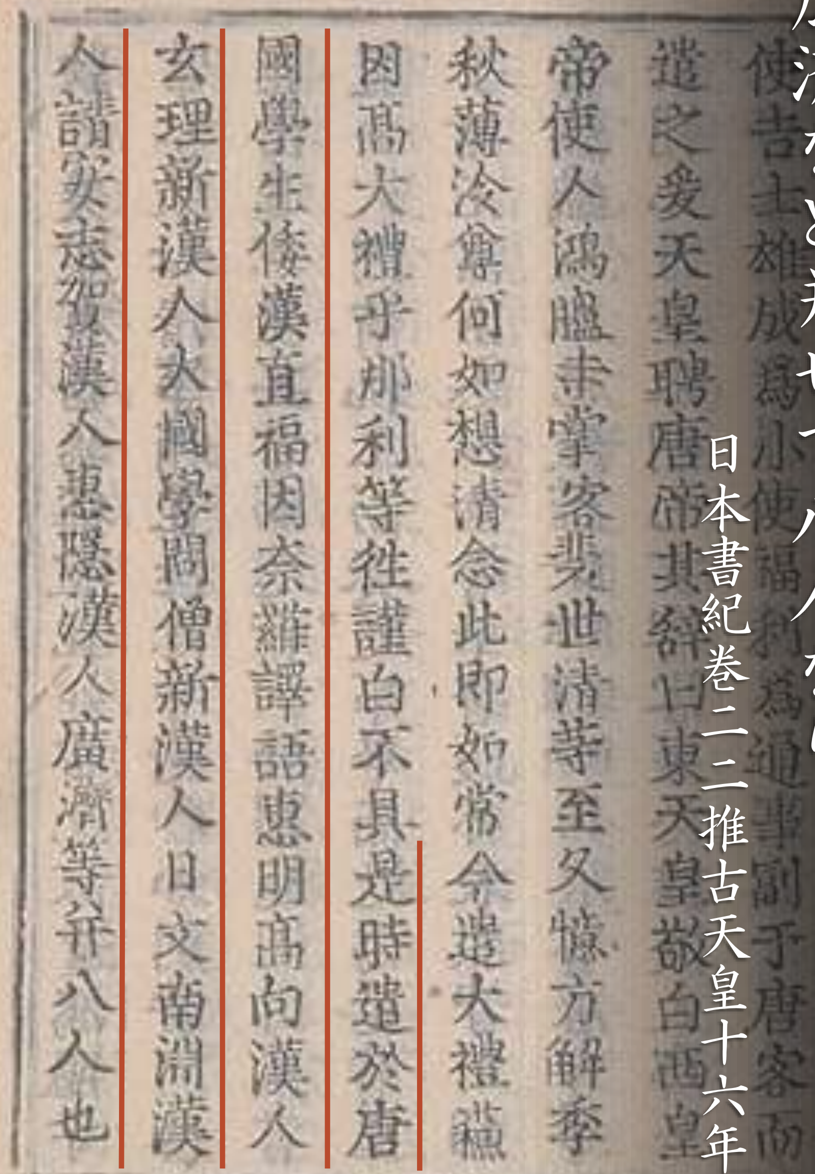
『日本書紀』巻二二推古天皇十六年



日本書紀(國學院大學図書館蔵)

隋に派遣された最初の留学生たち

この時、唐国に遣わされし学生は、倭漢直福因（やまとのあやのあたいふくいん）、奈羅訳語恵明（ならのおさえみょう）、高向漢人玄理（たかむくのあやひとくろまろ）、新漢人大国（いまきのあやひとおおくに）、学問僧は新漢人日文（いまきのあやひとにちもん、後の僧旻）、南淵漢人請安、志賀漢人恵隠、漢人広済など并せて八人なり。



使吉士雄成爲小使福利爲通事副于唐客而
遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇
帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至久憶方解季
秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮蘇
因高大禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐
國學生倭漢直福因奈羅譯語惠明高向漢人
玄理新漢人大國學問僧新漢人日文南淵漢
人請安志賀漢人惠隱新漢人廣濟等幷八人也

日本書紀巻二二推古天皇十六年

日本書紀(國學院大學図書館蔵)

帰化人と古代国家

歴史文化セレクション

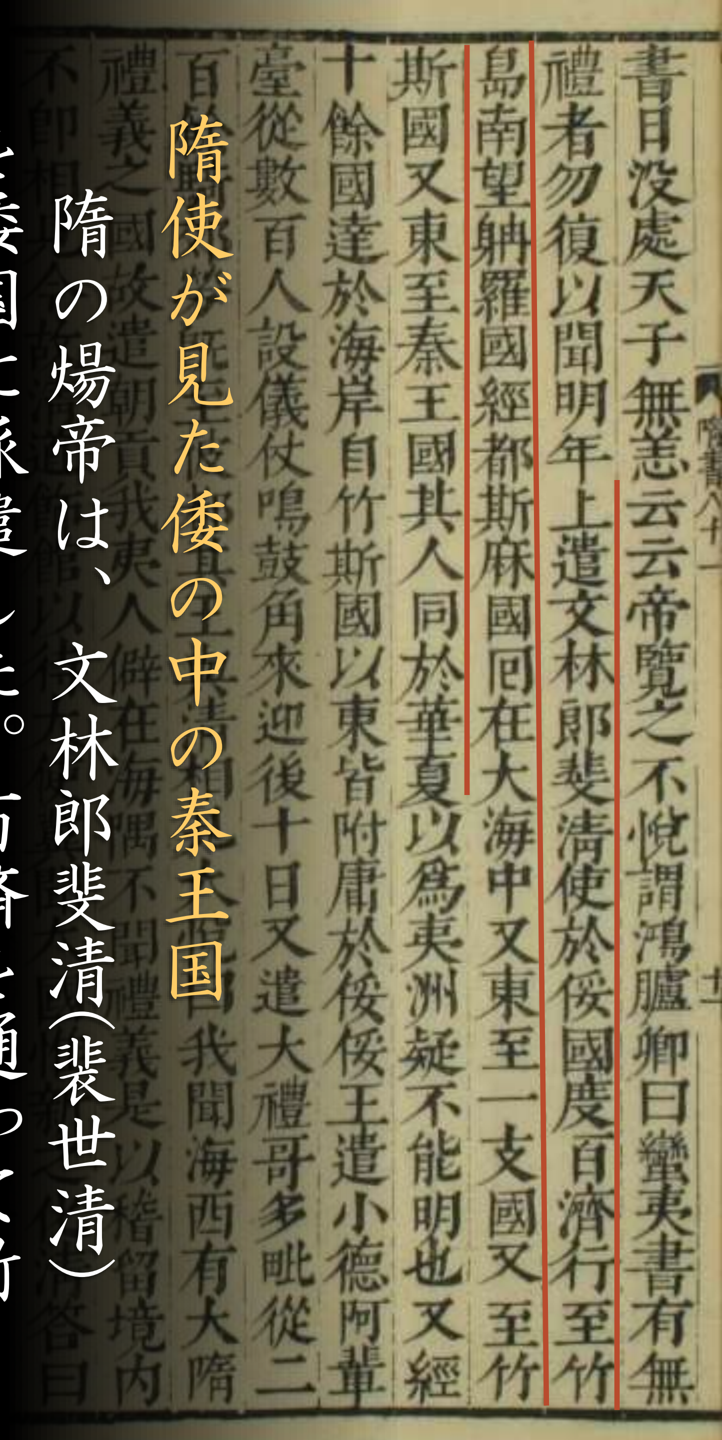
隋に派遣された最初の留学生たち

隋に留学生・留学僧としてつかわした八人の秀才をみると…倭漢直だけは正式の氏の名であるが、他の七人はそれではない。イマキノアヤというのは氏の名でなく「新しく渡来した、別系統の帰化人」という意味であり…名前をみても、フクイン・エミョウ・ゲンリなどみな音読されていた。どうやら彼らは、六世紀という新しい時点で渡来した南梁系の帰化人だったのではなかろうか。

平野邦雄『帰化人と古代国家』（吉川弘文館）

突厥
高句麗
大興(現在の西安)
裴世清の派遣
608年
新羅
百済
隋
589年建国
6世紀末の東アジア

隋使が見た倭の中の秦王国



隋の煬帝は、文林郎裴清(裴世清)を倭国に派遣した。百済を通って竹島に至り、南に済州島を見ながら、対馬を通り、再び大海に出て東に向かうと壱岐島に至り、さらに筑紫に至る。さらに東に行くと秦王国に至る。そこの人々は中国と同じである。かの夷州①かとも思われるが、よくわからない。

隋書巻八一東夷伝倭国

【注釈】

①夷州：亶州の誤りか。亶州は、秦の時代、始皇帝の命を受けた徐福が、不老長寿の薬を求め、数千の童男童女を従えて渡ったと伝えられる東海上の島。中国では古くから、これが日本ではないかと考えられている。

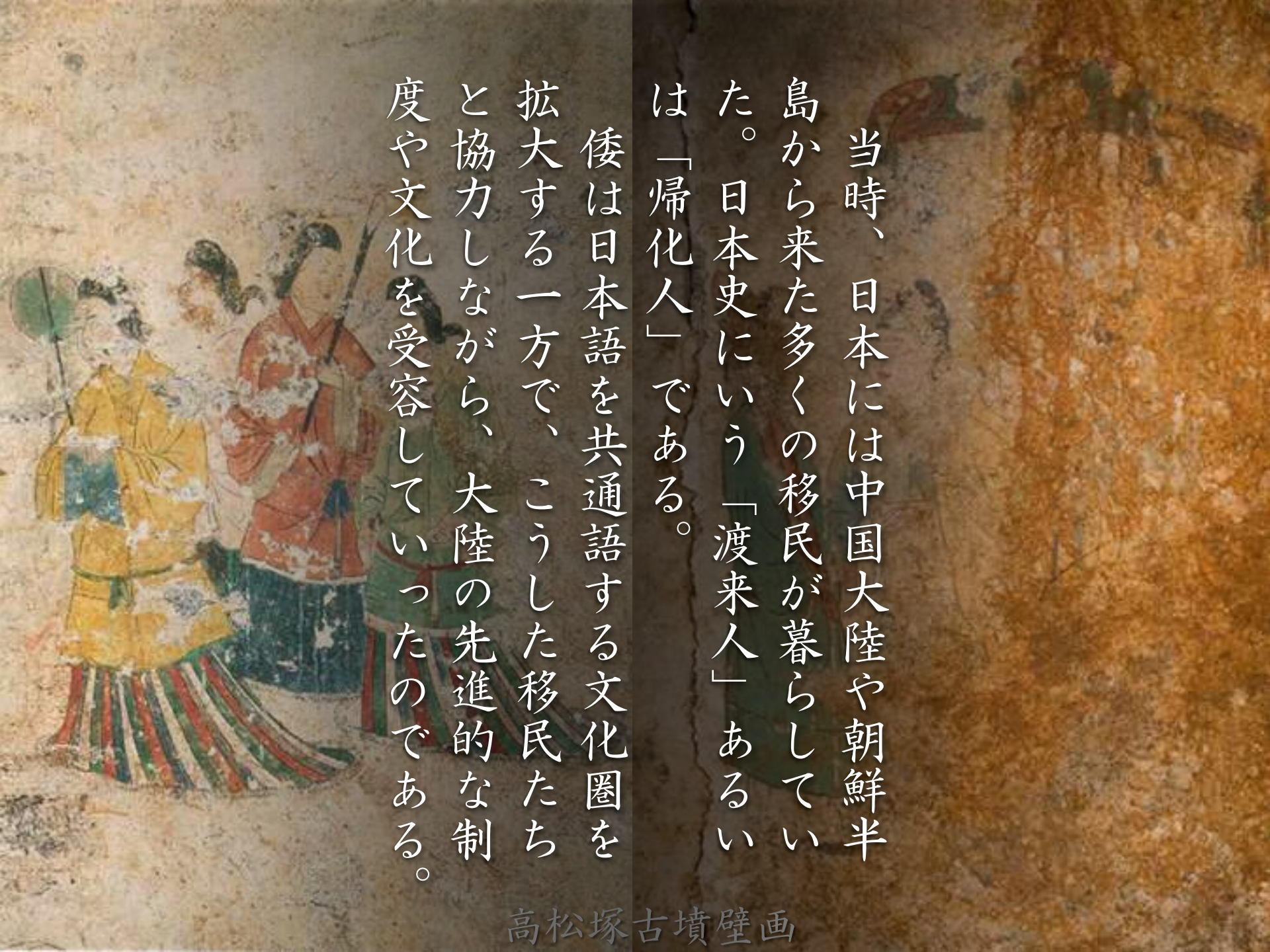
隋の使節・裴世清一行の訪日ルート

突厥
Q
隋との交流を通じて、倭の姿がどのように変ったかを知る手がかりはあるか？
①ある
②ない
高句麗
大興(現在の西安)
遣隋使
新羅
百済
隋
589年建国
7世紀初頭の東アジア

南朝梁蕭繹「職貢図」(6世紀)

高松塚古墳壁画(7～8世紀)

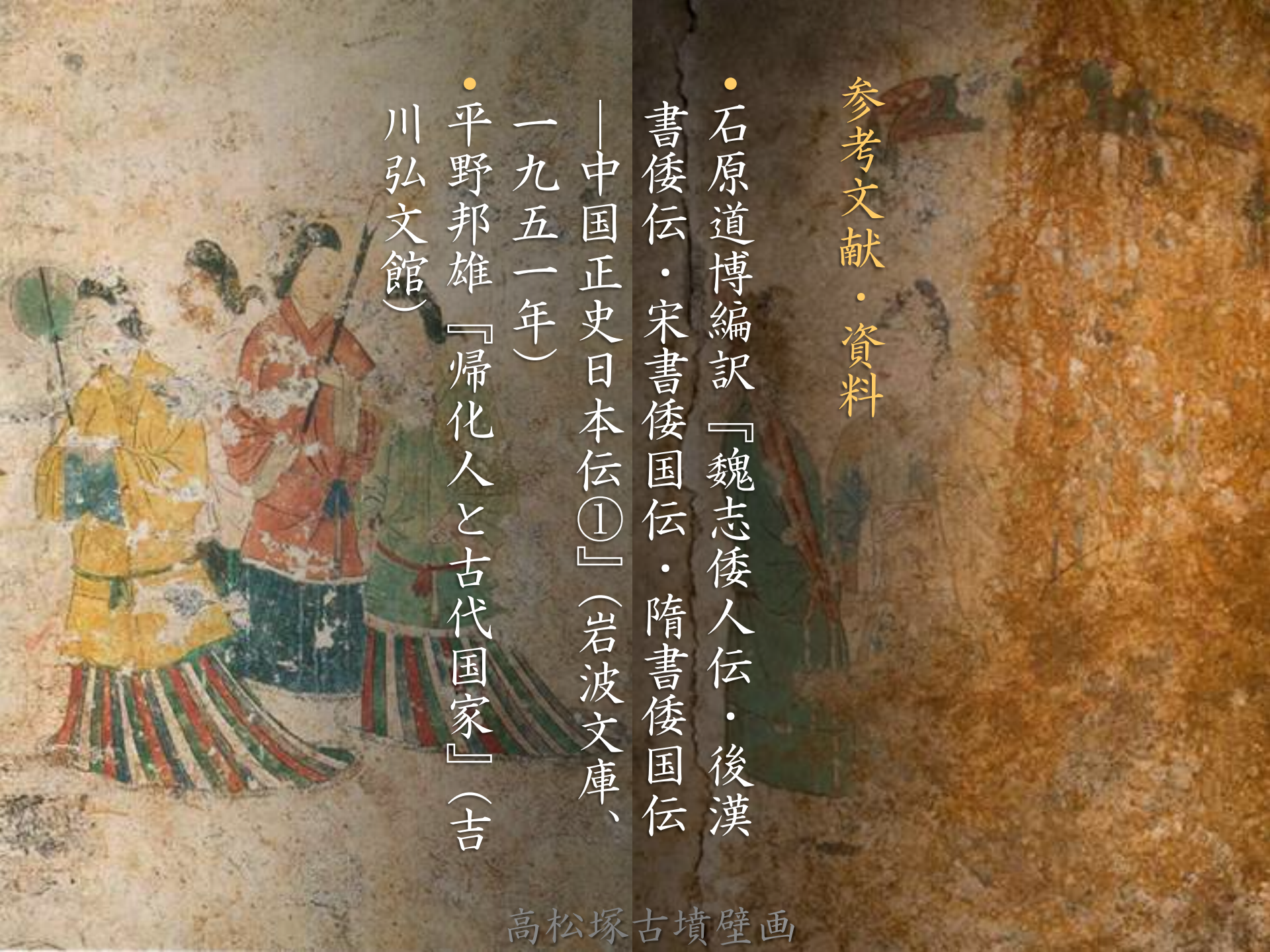
高松塚古墳壁画



当時、日本には中国大陸や朝鮮半島から来た多くの移民が暮らしていた。日本史にいう「渡来人」あるいは「帰化人」である。

倭は日本語を共通語する文化圏を拡大する一方で、こうした移民たちと協力しながら、大陸の先進的な制度や文化を受容していったのである。

高松塚古墳壁画



参考文献・資料

- 石原道博編訳『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝―中国正史日本伝①』（岩波文庫、一九五一年）
- 平野邦雄『帰化人と古代国家』（吉川弘文館）

高松塚古墳壁画